

平成 29 年 5 月吉日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題：

我が国の循環器血管造影領域における医療被ばくの実態調査

研究責任者：

藤田保健衛生大学医学部 放射線医学教室 職名 教授 氏名 外山 宏

研究目的：

公益社団法人日本放射線技術学会平成 28. 29 年度学術調査研究班より、我が国の循環器血管造影領域における医療被ばくの実態調査の依頼があった。

我が国の診断参考レベルが公開され、医療被ばくの最適化に対する関心が高まっている。血管造影領域では、皮膚障害が懸念され経皮的冠動脈形成術（PCI）に対する確定的影響の回避に主眼をおいた医療被ばく調査の報告は数多くある。しかし、確率的影響を考慮した循環器領域の全国調査は少なく、とりわけ放射線影響を受けやすい小児に関してはほとんど報告されていない。また皮膚障害が懸念されるのは、不整脈アブレーションも PCI と同等であり、この分野における現状把握も重要である。血管領域の様々な領域の確定的影響だけでなく、確率的影響も考慮した医療被ばくの実態を把握する事が重要である。

そこで、我が国における循環器血管造影領域（不整脈アブレーション、小児カテーテル検査、心臓診断カテーテル検査、PCI）で患者が受ける医療被ばく線量の現状を調査に当院も協力し、医療被ばくに関する我が国の実態調査データを参考にして、全国的で施行されている循環器血管造影領域における医療被ばくの線量を把握し、日常の診療、業務に活かす。

研究方法：

日本放射線技術学会会員の所属する医療施設を無作為に抽出した 300 施設（当院が選出された）の医療被ばくの実態調査を行い収集分析する。調査内容である、各装置の基本情報、当院で施行された患者（10 名程度）の身長、体重、不整脈アブレーション、心臓診断カテーテル検及び PCI の臨床における医療被ばく線量データ（総シリーズ数、総フレーム数、当時時間、総面積線量積(DAP)、総表示 AK 値）を学術調査研究班に提供する。

研究を実施する場所

日本放射線技術学会会員施設

(当院の調査を担当する井上は、日本放射線技術学会会員です)

***本研究の対象になられる方で、ご自身のデータの利用を除外してほしいと希望される方やこの研究に関することについては、他の患者さんの個人情報保護やこの研究の独創性確保に支障がない範囲で、資料を閲覧していただくことが可能です。希望される場合は、下記問い合わせ先までご連絡下さい。除外のお申し出により不利益を被ることは一切ありません。**

問い合わせ先：

藤田保健衛生大学病院 放射線部

担当者：井上聡

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

e-mail:inosnher@fujita-hu.ac.jp